

学校支援を積極的に進める

子どもたちのために取り組むPTA活動を目指して

日進市立日進中学校PTA

1 はじめに

本校は日進市の中央部に位置し、学区には市役所や市民会館、市立図書館、市スポーツセンターなど、日進市の主要な公共施設が所在している。日進市で最も古い中学校であり、昭和22年、日進村立青年学校の跡地に開校した。また、昭和35年に学区内に中日青葉学園が設立されたことに伴い、学園の敷地内に日進中学校青葉分校が開設され、県内では珍しい分校をもつ中学校となった。



【日進中学校校舎】

学校規模（分校除く本校のみ）は、生徒数727名、学級数は24学級（通常学級20、特別支援学級4）、PTA会員数は667名である。「挨拶、学習、行事、福祉、奉仕」を日進中の『5本柱』として掲げ、日々の教育活動を進めている。

2 研究への取組

（1）PTAの組織

本校のPTAは、役員10名、委員40名程度で構成されており、委員は地区委員会・研修委員会・厚生委員会・安全委員会・広報委員会のいずれかに所属して活動している。

運営委員会	役員				
	委員長	委員長	委員長	委員長	委員長
	地区委員会	研修委員会	厚生委員会	安全委員会	広報委員会

【日進中学校PTA役員・委員組織図】

それぞれの委員会は、以下のような内容を中心に活動している。

- 地区委員会・・・交通安全指導・あいさつ運動（年５回）、制服リサイクル活動
- 研修委員会・・・各種研修会の企画、校外の研修会への参加
- 厚生委員会・・・ベルマークの集約、給食試食会の企画
- 安全委員会・・・交通安全指導・あいさつ運動（年５回）、安全新聞の制作・発行（年２回）
- 広報委員会・・・各種学校行事の取材、ＰＴＡだより「日中健児」の制作・発行（年２回）

（２）研究のねらい

数年間に及んだコロナ禍により、ＰＴＡ活動の多くは中止・縮小を余儀なくされた。また、社会の変化、とりわけ共働き家庭の増加など、家族形態の変化により、ＰＴＡ活動への参加意欲は大きく低下している。しかし、子どもたちの健やかな成長を願う思いは、いつの時代も変わらないはずである。学校と家庭、さらには地域を結び付け、子どもたちの成長を一枚岩となって支えていくためには、ＰＴＡ活動は必要不可欠な存在であると考えます。全てをコロナ禍前に戻すのではなく、新しい形・新しい方法を模索しながらＰＴＡ活動の充実を図り、「子どもたちのために」という学校・家庭・地域の「最大公約数」を念頭に置きながら、ＰＴＡ活動を進めていきたい。

３ 実践活動の概要

（１）日中健児を支える会

本校には、かつて母親が子育ての中心を担っていた時代に、「おやじの会」という名称の活動が始まり、休日に父親が中心に集まって子どもたちの学習環境を力仕事で整えたり、校内で使用するさまざまな道具や家具を大工仕事で手作りしたりしながら交流を深めていた。

しかし、社会の変化に伴い、性別や立場に関係なく子どもたちの学校生活を支える活動をしたいという気運が高まり、「日中健児を支える会」と名称を変え、父親に限らず幅広いメンバーが集まり活動を続けてきた。そして、コロナ禍後には、「除草作業」と「壁面の塗装作業」を中心にして活動を再開している。

① 前期の活動「除草作業」

本校には校舎のすぐ目の前にある運動場に加え、敷地から300mほど離れた場所に第２グラウンドがある。教職員や生徒が時間を見つけて取り組むとともに、業者の手も借りながら除草作業を進めているものの、敷地が非常に広いため、夏場にな



【日中健児を支える会：前期】

ると生い茂る雑草が成長するスピードに除草作業が間に合わない状況になる。そこで、前期の日中健児を支える会では、運動場の除草作業に取り組んでいる。PTA会長が発起人となって参加を呼びかけ、教職員・保護者・生徒から多くの有志が集まり、学習環境を整えるために、精一杯取り組んでいる。また、除草作業をしながら、教職員と保護者が世間話をして関係を深めたり、情報交換をしたりするなど、学校と家庭の距離が縮まる、貴重な時間になっている。



【除草作業の様子】

② 後期の活動「校舎内壁面の塗装作業」

本校は開校78年目を迎えており、その間に増改築を繰り返しているものの、最も新しい校舎が建設されてから50年近くが経過している。そのため、校舎の劣化が激しく、校舎内の壁面は塗装が剥がれたり、汚れが染みついたりしている箇所が多くなっている。そこで、後期の日中健児を支える会では校舎内壁面の塗装作業に取り組んでいる。こちらの活動にも、教職員・保護者・生徒が力を合わせて和気あいあいとした雰囲気で行っているが、壁面の色が変わっただけで校舎内がとても明るくなるため、大きなやりがいと達成感を感じることができる。



【日中健児を支える会：後期】



【壁面塗装の様子】

これまでは地域学校協働活動の取組として、日中健児を支える会とは別の日時に、地域のボランティアの方が除草作業をしてくださることがあったが、来年度からは日中健児を支える会への参加を地域の方にも呼びかけ、学校・家庭・地域が力を合わせて子どもたちのために活動することを計画している。

(2) 持続可能なPTA活動を目指して

① ベルマークの収集・整理

本校のベルマーク運動は、生徒会の福祉委員会が中心になって各学級で集め、PTAの厚生委員会が整理をしている。かつては、集まったベルマークのポイントで車椅子を購入し、学校に隣接する福祉施設に寄贈したこともあったようだが、現在は生徒の快適な学校生活を支えることを目的として収集を続けており、暑さ対策のためにウォータークーラーを校内に設置することを目標にしている。一枚一枚は本当に小さく、風が少し吹いただけで飛んでいってしまうなど、扱いが難しく非常に地道で繊細な作業になるが、生徒と保護者が力を合わせて取り組むことにより、着実にポイントを貯め、目標に近づいている。

② 給食試食会

子どもたちが毎日口にしている給食について、日頃から保護者の関心は高く、コロナ禍前は毎年給食試食会を実施していた。昨年度、本校に新任の栄養教諭が赴任したことをきっかけに、給食試食会を再開するとともに、中学生のよりよい食生活について、栄養教諭が保護者向けに講話する機会を設けた。保



【栄養教諭による講話の様子】

護者からは「部活動で疲れて帰ってきた後には、どんな食事がよいか」「テスト勉強のときに効果的な間食は何か」といった、成長期の子どもの食生活を見直すための質問が事前に数多く寄せられたが、栄養教諭がプレゼンテーションを用いてその質問に分かりやすく的確に答えるとともに、給食が作られている様子をまとめた動画を披露したり、給食の人気メニューのレシピを紹介したりすることにより、学校と家庭が手を携え合って食育を進めることに貢献している。

4 おわりに

今回の研究を通して、PTA活動はその活動自体にももちろん意味があるのだが、それ以上に活動により生まれる「会員同士のつながり」や「学校と家庭のつながり」が大切なものであることを強く感じた。社会の変化とともに、学校に向けられる目は年々厳しくなっており、生徒の健全育成のために本来は手を携え合うべきはずの「学校と家庭」「教師と保護者」が対立してしまうような場面も少なくない。しかし、PTA活動に取り組む中で、教師と保護者がより身近な存在になり、相互理解が深まることにより、「子どもたちのために」という思いを共有し、きずなを強くすることができた。今後は、地域の力を借りられるような機会を増やし、学校・家庭・地域がより連携し、子どもたちの健やかな成長を支えていきたい。そして、「子どもたちのために」持続可能なPTA活動を目指していきたい。